

ちよだ としよかん がっこうしえん
千代田図書館 学校支援
なつ
夏のおたより

おはなしトレイン

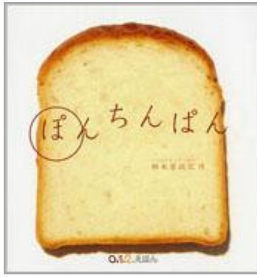
なつのワクワク号

2014. 7



0歳（あかちゃん）から 5歳までの みなさんに おすすめの本を 選びました。

0～2歳
のイチオシ！

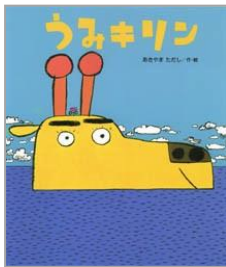


かきのきはらまきひろ さく
柿木原政広 / 作
ふくいんかんしよてん
(福音館書店)

『ぼんちんぱん』

「ぱんぱん しょくぱん ぼんちんぱん！」「ちぎちぎ ぱっぱで ぼんちんぱん！」思わず手を伸ばしたくなるおいしそうなおパンの絵に、リズムカルな言葉が添えられました。読み手によってリズムや間が変わるので、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんも、ぜひ声に出して読んであげてください。読むごとに楽しくなってきますよ。

3～4歳
のイチオシ！



あきやまただし / 作・絵
（金の星社）

『うみキリン』

海からポカリと顔を出しているのは、海にすんでいるうみキリンです。とても背が高いうみキリンは、頭や長い首を海の仲間たちのために使ひ、楽しく暮らしています。おまけに、歩くだけで海をきれいにすることもできるのです。そんなうみキリンを見ていると、なんだかとても優しく、穏やかな気分になってきます。今日は、うみキリンにあえるかなあ。

4～5歳
のイチオシ！



ルース・クラウス / 作
モーリス・センダック / 絵
いしづ 石津ちひろ / 訳
とくましよてん
(徳間書店)

『くま！くま！くまだらけ！』

表紙の男の子…どこかでみたこと、ありませんか？「かいじゅうたちのいるところ」のモーリス・センダックと、「はなをくんくん」のルース・クラウスが、仲良く一緒に本を出しました。どのページも「くま！くま！くまだらけ！」。短くも楽しい文章は、まるで詩歌のよう。次々と変わる犬の表情にもご注目！

0～2歳



カレン・カツツ／作
石津ちひろ／訳
(講談社)

『おやすみのキッス』

赤ちゃんへおやすみのキッスをしましょう。まずはちっちな指に、そーっとチュッ。つぎはパタパタうごく足に、チュッ。絵本を読みながら、お子さんにチュッとしちゃいましょう！

この時期の読み聞かせは、大切なコミュニケーションの一つです。絵本を通じて、赤ちゃんといっばい触れ合ってくださいね。

『あ・あ』



三浦太郎／さく・え
(童心社)

多くの赤ちゃんが、最初に口にする音、「あ」が本になりました。やさしい色使いでありながら、カラフルでかわいらしい赤ちゃん絵本です。もも、とと、パパ、ママ、赤ちゃんが声にしやすく、だいすきな言葉があふれています。パパもママも、じーじもばーばも、赤ちゃんと一緒にニコニコおはなししましょう。

『がたんごとな がたんごとな
ざぶんざぶん』



安西水丸／作・絵
(福音館書店)

1987年に出版された『がたんごとながたんごとな』の続編です。がたんごとなと走っていく汽車、ざぶんざぶんと涼しげな波の音。「のせてくださいー」と待っているのはアイスクリームや麦わら帽子など、夏らしい面々です。みんなを乗せて到着した場所は…？ リズミカルな繰り返し楽しい、夏にぴったりのあかちゃん絵本です。

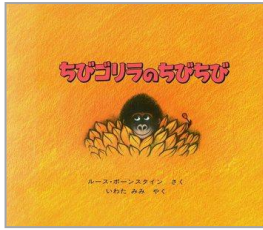
『とつとことつとこ』



まつい のりこ／作・絵
(童心社)

ねこさん、とつとことつとこ、へびさん、とーとことーとこ。ぶたさん、かえるさん…みんな楽しそうにとつとことこへ行くのかな。イラストはシンプルかつ温かみのある色で、お子さんの心をつかみます。また、みんながそれぞれの足音も持っています。赤ちゃんと一緒に色々な言葉の響きを楽しんでみてください。

3～4歳

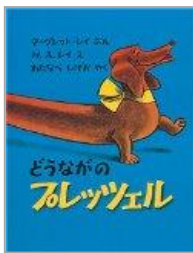


ルース・ボーンスタイン／さく
いわたみみ／やく
(ほるぶ出版)

『ちびゴリラのちびちび』

森の動物たちは小さなゴリラのちびちびが大好きです。ちびちびはライオンのしっぽをつかんだり、かばの背中に乗ったり、皆に見守られて、のびのびと遊びます。そんなちびちびにある変化がおとずれます。ちっちゃなゴリラとどっしりした動物との対比がユーモラスな構図を生み出し、ゆったりとした時を感じられる一冊です。

『どうながのプレッツェル』



マーグレット・レイ／ぶん
H・A・レイ／え
わたなべしげお／やく (福音館書店)

プレッツェルは、どうの長いダックスフントです。ドッグショーで優勝するほど立派なのに、大好きなグレタはしらん顔。何度も声をかけますが、好きになってくれませんが、そんなある日、グレタが深い穴に落ちてしまいました。プレッツェルはグレタを助け出すことができるでしょうか？

『中をそうぞうしてみよ』



さとうまさひこ
佐藤雅彦＋ユーフラテス／作
ふくいんかんしよてん
(福音館書店)

「このいすにはたくさんのくぎが使われている。何本ささっているか、そうぞうしてみよ。」
外から見ただけではわからない、身近にあるものの“中”のひみつを、X線写真で教えてください。
貯金箱、包丁、赤青えんぴつにボールペン…。
ページをめくる前に、中がどうなっているのかじっくり想像してみてくださいね。

『ほんをよむのにいいばしょは？』



シュテファン・ゲンメル／ぶん
マリー・ジョゼ・サクレ／絵
さいとうただし やく しんにほんしゅつぱんしゃ
斉藤規／訳 (新日本出版社)

こねずみのニリィは、お話が大好きです。森で見つけた本を読みたいのですが、家では弟たちが大暴れ。森ではきつつきが仕事中ですし、もぐらのいびきや、かえるの音楽会やら、静かな場所がありません。諦めようとした時、「お話会」を思いついたのです。ニリィがお話を読んでいる優しい声が聞こえてくるようです。

4～5歳



いのうえあけの / 作
 たなかきよ / 絵
 (アリス館)

『ひみつのカレーライス』

家族みんなでカレーを食べていると、カレーの中から何やら不思議なたねがでてきました。お父さんが調べてみるとそれはなんとカレーのたねだったのです！ そのカレーのたねを庭に植えてみると、芽がでて葉がでて…。

うーん、いいにおいがただよってくるようです。読み終わるとカレーが食べたくなりますよ！

『みちかなしぜんではやくちことばくさばなのまき』



ひらたまさひろ / 作
 (講談社)

「この えのころぐさ どこ の えのころぐさ」この早口言葉、言えますか？ アサガオやオシロイバナなど、身近な草花の名前が、テンポのよい早口言葉になりました。声に出して楽しみながら、草花の名前も覚えることができます。小型の写真絵本なので、お出かけの時に持って行って、草花を探すのもいいかもしれませんね。

『バスにのって』



あらいりょうじ / 作・絵
 (偕成社)

青空が広がる砂漠の真ん中で、バスを待っている旅人がいます。バスを待つ間、旅人はラジオを聴きます。ラジオからは不思議な音楽が聞こえてきました。トントンパットン、トンパットン。バス停でのんびり待っているお話ですが、繰り返しの言葉がおもしろく、旅人の気持ちになって、ゆったりとした時間を過ごせます。

『ピーターのがみ』



エズラ・ジャック・キーツ / さく
 きじまはじめ / やく
 (偕成社)

ピーターは誕生会にエイミーを誘うため、初めて手紙を書きました。ポストに入れようと外に出ると、強い風が吹いて、手紙が飛ばされてしまいます。追いかけていくと、そこにはエイミーが！ あわてたピーターは、エイミーにぶつかってしまいました。さて、ピーターのきもち、エイミーに伝わるのでしょうか？